

第3回そば打ち12／5実施予定
（第2回ソフトバレーボール10／3、

涉外部長 龍崎由美子
さる六月二十三日、本校コ
スモホールにおいて「第一
回PTAふれあい講座」が
二十三名の参加者を迎えて開催
されました。前半は、額賀校
長による『初めてのロンドン・
パリ旅行』と題した講話です。
二十数年前のたつた一人の海
外視察旅行の様子をハラハラ
ドキドキ、おもしろおかしく
お話をくださいました。

後半は山中洋子さんによる
『家族のコミュニケーション
は何から伝える?』でした。

全校ボランティア



3年 車椅子体験

三の一 助川 智佳
私は車椅子体験をしました。車椅子で生活をし
たり注意する人を見かけたら積極的に声をかけたいと思いま
た。また、生徒のお弁当のボ
ンネアンケートなどの発表もあり、短いながらも充実した
時間を過ごすことができました。（第2回ソフトバレーボー
ル10／3、

2年 点字体験

二の六 長山 春香
二年六組では点字を打つボランティア体験をしました。五十音や自分の名前、文章なども打つ作業は簡単なようと思えますが、点一つずれてしまふのでとても集中力が必要でした。指の感覚が難しかったので読み取る点字の難しさを感じました。

一の二 宮部 真弥
今日の講話を通して、自分が為したこと、何ができるよう、まずは小さく強く打たれた。自分も、人の為に何かが為つた。その中でも、人の為に動くこと、このことからられるかというとに、どれだけの人を支えられることからなし、いざなに人への支えとなれるよう、ใจを強く打たれた。普段は立ち入り禁止ですが、遺族会の方に特別に許可をもらい、草刈りを行いました。その後、津波で破壊された校舎を案内していただき、廊下に残された小学生の名前のシールを見つけ、胸が痛みました。遺族会の方やバスの中での石塚観光の綿引社長さんの解説もあり、今回のボランティアは、忘れられない体験となりました。

東北ボランティアバス



二の二 内藤 裕介
今回は一般生徒からの募集を実施し、大変多くの生徒が積極的に参加しました。被災地の方々と生で会話する機会など滅多に有りません。自分の祖母は釜石市出身なので、震災前から毎年釜石を訪れていましたが、現地の方々と生で話し合う機会は殆ど無く、震災後は尚更です。二〇一年の御盆の時は、瓦礫を車窓越しに見つめることしかできませんでした。大変悔しいです。そんなこともあり、今回の企画は、とても貴重なものでした。この経験を必ず今後に生かしていきます。



一の六 加倉井ゆうか
宮城県石巻市立大川小学校を最初に見た時、自分にとつてとても衝撃的で言葉が出ませんでした。普段は立ち入り禁止ですが、遺族会の方に特別に許可をもらい、草刈りを行いました。その後、津波で破壊された校舎を案内していただき、廊下に残された小学生の名前のシールを見つけ、胸が痛みました。遺族会の方やバスの中での石塚観光の綿引社長さんの解説もあり、今回のボランティアは、忘れない体験となりました。